



◇歯科研究会

“Withコロナ”における

確実で効率的な歯周治療
歯周治療のゴール、効率的なスケーリング・デブライドメント、
新型コロナ院内感染予防対策



市丸 英二 先生



小川 希和子 氏

二先生（医療法人ぐら
小川希和子氏（同主任）
科研究会「With」
率的な歯周治療・第1
ゴール、効率的なスケ
ント、新型コロナ院内
20医療機関から45人のパ
参加者からの報告です。

コロナ流行期に入つて、
保険医協会主催のセミナー
・講演会が中止であつ
た中、今年度初のセミナ
ーが2020年9月24日
アバンセホールにて行わ

れました。会場の入り口では体温の確認、手指消毒では体調管理を行いました。

小川 義和子 氏

①現在の歯周治療の到達点について
歯周炎の進行を完全に止めることを主軸として、失われた組織を再生させること、再発を長期的に予防すること、歯を抜かず、「」で角質化を行なうことをしな

点があるりでして、阳县の勘所が明かされていて非常に参考になりました。

下解説

佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
(大樹生命佐賀駅前ビル4F)
電話 0952(29)1933
FAX 0952(23)5218
HP <http://saga-doc.jp>
hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料 1部 200円
送料込 年間2,400円
(会員の購読料は会費
に含まわれています)

協会会員数
医科 660人
歯科 330人
合計 990人
(8月31日現在)

主な記事

- ・県内の幼稚園等に絵本を進呈
 - ・2019年度個別指導・新規個別指導結果（佐賀県【医科・前編】）3面
 - ・共済部により「グループ生命保険『保険金額変更締切迫る』」5面
 - ・労務管理・均等均衡待遇の法改正

どんな働き方でも納得できる待遇のルール（後編）」 6面

要 請 事 項

1、県（市・町）内のすべての医科・歯科医療機関に対して、支援金・給付金等による減収補填策を講じること
融資の返済猶予、家賃・人件費の補助などの財政措置を講じること

- 1、国に対して、すべての医科・歯科医療機関が経営破綻を起こさず、日常診療を維持できるように、減収補填策を講じるよう求めること
 - 1、県（市・町）として、受診控えによる住民の健康悪化や重症化を防止するため、住民に対して、安心して医療機関を受診するよう積極的に広報すること
 - 1、感染予防のための医療用マスク、消毒薬等の衛生材料を確保し、医科・歯科医療機関に不足が見込まれる場合には迅速・確実に供給すること
 - 1、新型コロナ感染拡大の影響で収入が減少している住民に受診抑制が生じないよう、県（市・町）としての医療費助成や国民健康保険の減免措置を講じること

四

すべての医療機関に対する
給付金等の財政措置を要請（県内自治体に

当協会では10月9日(金)に県や市町の自治体宛に「すべての医科歯科医療機関に対する給付等の財政措置を求める」と題した要請を行いました。要請書では、県内の医科・歯科医療機関が大幅な減収になつてゐる事や融資の返済や家賃、人件費など固定費の負担が重く、しかかもつてゐる事を、当協会が5月や7月に行つたアンケート結果を基に実態を報告を第一線の医療機関では、医師やスタッフは感染する危険に絶えず

地域の医療機関の日常診療が立ち行かなくなつて患者さんや住民への医療提供、健康の確保に影響を及ぼす。政府の令和2年度第2次補正予算では、この間の患者減による減収の補填は含まれておらず、感染拡大防止策を取りながら日常診療を取り組んでいくは不十分。さらなる感染拡大に備えるため、すべての医科・歯科医療機関に対する県独自の給付金等の支援策が必要など医療機関のコロナ禍でのこれまでの実態や状況を踏まえ、今後の新規感染者が出了場合、診療が立ち行かなくなつて患者さんや住民への影響を及ぼす。すでに山形県では、「県全体で地域医療提供体制を維持するため」、民間病院や県内すべての医科歯科診療所に支援の給付を行つています。

「佐賀県でも医療機関に対する支援金、給付金等による減収填補策をはじめ、左記の申請を要請しました。

香りも漂い始め、すこし秋めいてきた。今年は、コロナ禍で年老いた母が暮らす実家でも、父やご先祖が眠るお墓へ墓参りにも行けず、例年になく寂しい秋の到来であった。そんな敬老の日の新聞に次のような記事を見つけた。「肥前国平戸藩第9代藩主の松浦義定は、「手はふるう足はひどく、齒は抜ける」耳は聞こえず目はうとくなつて」と、老いの特徴を誰もが通る道だと説いている。江戸時代の平均寿命は現在よりもはるかに短かった。しかし、元気なお年寄りも多くいた。平戸藩には高齢者の現役旅館職員のリストが残っている。最高齢は、御年99歳林奉行の井上元七郎。次いで、89歳土屋讚岐守、80歳以上で、上の旗本は25人おり、皆何らかの役職に就いており、正に江戸版の活络躍進社会のようだ。以上、「肥前と鼠小僧」（中公新書）より▼令和に至った途端に新型コロナウイルス感染の拡大に見舞われたことで、社会のIT化とデジタル化が急速に進む。老若男女全ての国民がパソコンやスマートを使いこなせることが当たり前の時代へ。40代の私でさえも、デジタル機器の扱いに必ず死に付いている状況で、社会のIT化の波に高齢の母は完全に取り残されている。新政権によっては、今日の日本をもう少し配慮した國創りを行っていたいただきたいものだ。